

## はじめに

社会を支える静脈産業としてその使命の責任を持ち果たす、つまり、事業を止めることがないように行ってはいても、ゴミ収集、産廃、処分場等の業界(産業廃棄物処理業界)に対しては、決していいイメージを持たれていないのではないかと感じております。

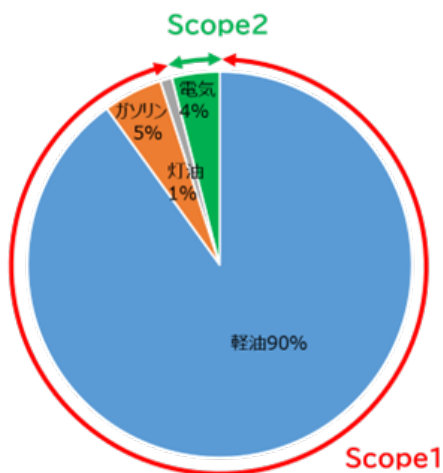
業界に対してそのような印象を持たれていながら、世界が脱炭素化へ進んでいる中で、車両からCO2の排出をせざるを得ない現在の環境も存在しています。

業界の一員としてもネガティブイメージを払拭していかなくてはいけないと考え、社会が地域が社員が、そして関係する全ての世界が良くなるために脱炭素経営を推進していかなくてはいけないという想いが根底にあります。

そのような思いから、今回のSBT認定後においても積極的に行動を起こし、排出削減に取り組むことは極めて大きい意味のあるものと考え推進しています。

### SBT(Science Based Targets)認定(中小企業版) -2022年4月-

2018年を基準年とし、2030年までに温室効果ガス(GHG)排出量30%を削減する目標設定とします。



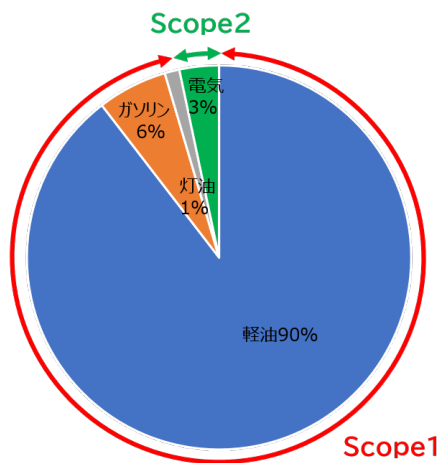
●2018年排出量▶1,445.6t-CO2/年

●2030年目標排出量▶1,011.9t-CO2/年  
2018年から▲30%削減を目指します。

円グラフは2018年排出量比率(%)。ガスは1%に満たないためグラフ内への反映は含まれていません。

年度	電気	ガス(LPG)	ガソリン	軽油	灯油	合計
2018年度 GHG排出量 (単位t-CO2/年)	52.3	0.5	68.1	1,305.4	19.3	1,445.6

## ■2019年度排出量

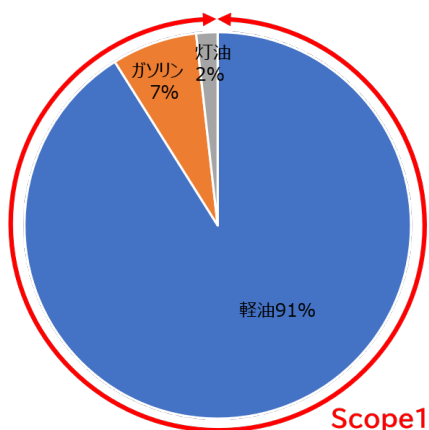


●2019年度より脱炭素に向けた活動を本格的に開始しました。そのため基準年と比べ大きな差は出ていません。2019年10月に再エネ100宣言RE Actionに参加し、本格的に脱炭素化に向けて進んだ年です。また、事業拡大により約10%の社員増になりましたが、排出量は約2%増です。

円グラフは2019年排出量比率(%)。ガスは1%に満たないためグラフ内への反映は含まれていません。

年度	電気	ガス(LPG)	ガソリン	軽油	灯油	合計
2019年度 GHG排出量 (単位t-CO2/年)	49.3	0.4	87.4	1,329.4	18.4	1,484.8

## ■2020年度排出量

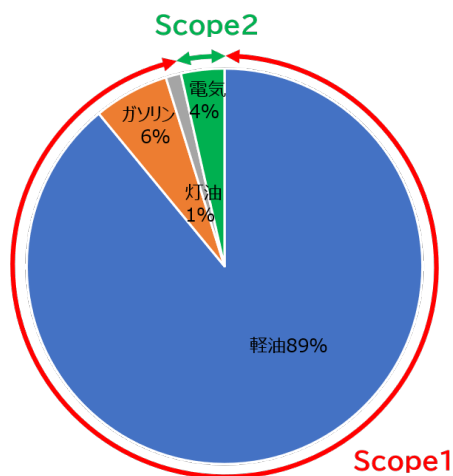


●2020年度は、再エネ活用についてより強化するため宮城県産由来のJ-クレジットを活用するとともに、自家消費型の太陽光発電の準備を行い、2021年2月に太陽光発電が稼働し再エネ100%化しました。

円グラフは2020年排出量比率(%)。ガスは1%に満たないためグラフ内への反映は含まれていません。

年度	電気	ガス(LPG)	ガソリン	軽油	灯油	合計
2020年度 GHG排出量 (単位t-CO2/年)	0.0	0.7	98.4	1,252.9	24.6	1,376.6

## ■2021年度排出量



●2021年度はSBTへの申請を行う準備の年として活動を開始しました。SBT申請準備により、当社の温室効果ガス排出について何が課題なのかが明確になりました。明確になった課題を削減・解決・模索するためにもSBT申請を行うことになったきっかけの年でもあります。

円グラフは2021年排出量比率(%)。ガスは1%に満たないためグラフ内への反映は含まれていません。

年度	電気	ガス(LPG)	ガソリン	軽油	灯油	合計
2021年度 GHG排出量 (単位t-CO2/年)	53.0	0.7	92.3	1,333.2	18.8	1,498.0

●2022年度は当社の大きな課題であるスコープ1の削減について何ができるかを将来を見据えて検討しながら積極的に活動する年として進めています。電気については、太陽光発電の他、再エネメニューを活用し再エネ100%でスタートしました。